マルアジ（日本海西・東シナ海系群）①

マルアジは我が国本州沿岸および東シナ海に広く生息し、本系群は日本海西部から東シナ海に分布する群である。

図1　分布域

日本海西部から東シナ海に広く分布する。季節的な南北移動をすると考えられている。

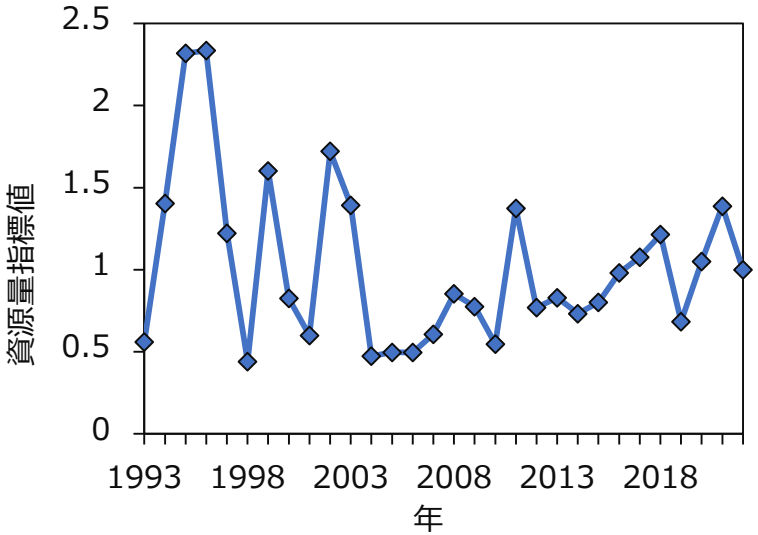

図3　資源量指標値の推移

おもに東シナ海で操業する大中型まき網と長崎県沿岸で操業する中・小型まき網の標準化CPUEの相乗平均値を資源量指標値とした。1993～1996年にかけて増加し、その後減少し、2003年までは増減が大きく、2004年に大きく減少したものの、それ以後は横ばいで推移している。2022年の資源量指標値は1.00であった。

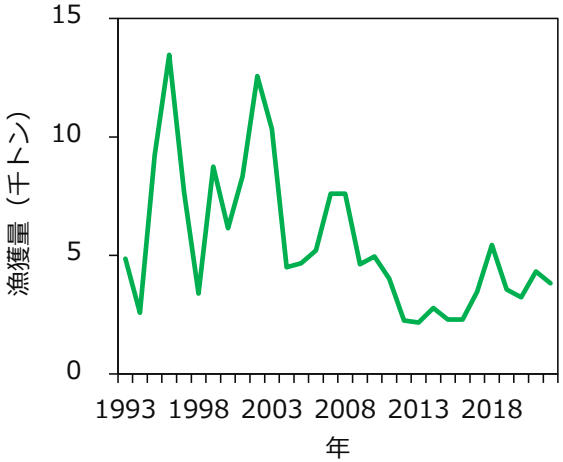

図2　漁獲量の推移

資源量水準が得られている1993年以降の漁獲量は2002年に1.3万トンであった後は急激に減少している。2022年の漁獲量は3.8千トンであった。

本資料では、管理基準値や漁獲管理規則など、資源管理方針に関する検討会（ステークホルダー会合）の議論をふまえて最終化される項目については、研究機関会議において提案された値を暫定的に示した。

マルアジ（日本海西・東シナ海系群）②

本系群で使用可能なデータは漁獲量と資源量指標値である。したがって、「令和5（2023）年度 漁獲管理規則およびABC算定の基本指針」の2系規則を適用する。

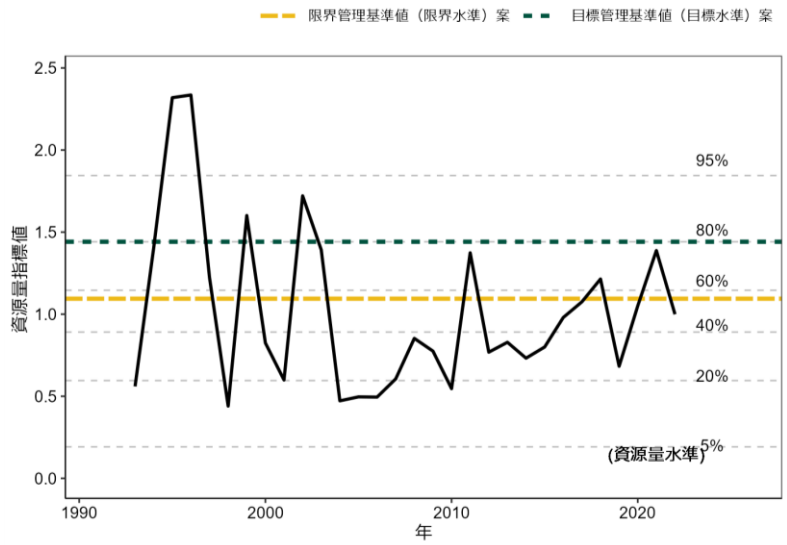

図4　資源量水準および管理基準値案

大中型まき網と中・小型まき網の標準化CPUEの相乗平均値を資源量指標値（黒線）とし、資源量水準に基づいて80%水準を目標管理基準値（緑線）、56%水準を限界管理基準値（黄線）として提案する。

2022年の資源量指標値（1.00）は48.5%水準に相当するため、限界管理基準値案を下回る。

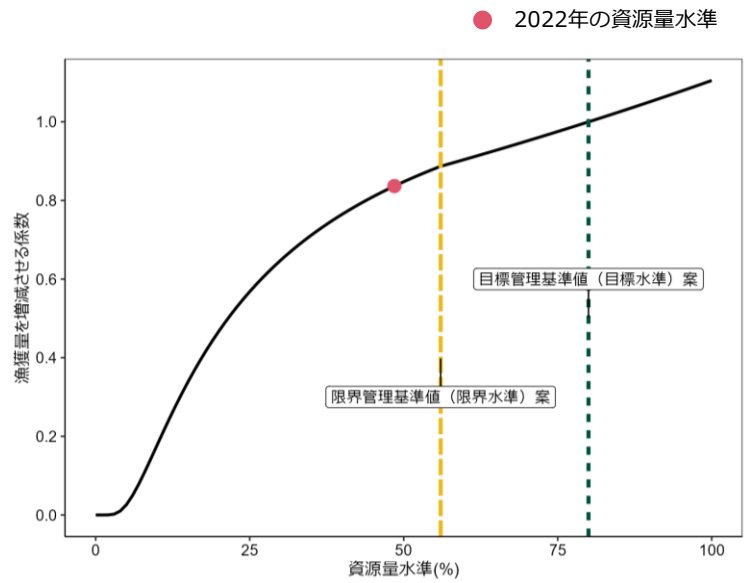

図5　漁獲管理規則案

資源量水準に応じて漁獲量を増減させる係数（黒線）を決める漁獲管理規則を提案する。資源量水準が目標管理基準値案（緑線）を上回った場合は漁獲量を増やし、下回った場合は削減する。

現状（2022年）の資源量水準（48.5%）における漁獲量を増減させる係数（赤丸）は0.84である。

本資料では、管理基準値や漁獲管理規則など、資源管理方針に関する検討会（ステークホルダー会合）の議論をふまえて最終化される項目については、研究機関会議において提案された値を暫定的に示した。

マルアジ（日本海西・東シナ海系群）③

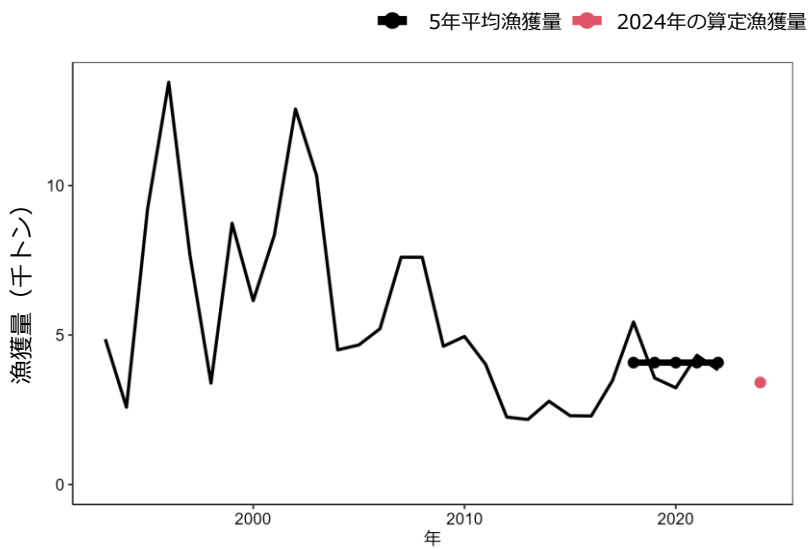

図6　漁獲量の推移と2024年の算定漁獲量

直近5年間（2018～2022年）の平均漁獲量（黒丸、4,079トン）に2022年の資源量水準から求めた漁獲量を増減させる係数（0.84）を乗じて算出される2024年の算定漁獲量は、3.4千トン（赤丸）となる。

	資源量水準	漁獲量を増減させる係数	資源量指標値
目標管理基準値（目標水準）案	80.0%	1.00	1.44
限界管理基準値（限界水準）案	56.0%	0.89	1.09
現状の値（2022年）	48.5%	0.84	1.00

資源量指標値の推移から求めた資源量水準と目標管理基準値案および限界管理基準値案の位置関係に基づき漁獲量を増減させる。
2022年の資源量水準は48.5%であることから、2024年の算定漁獲量は3.4千トンと算出される。

本資料では、管理基準値や漁獲管理規則など、資源管理方針に関する検討会（ステークホルダー会合）の議論をふまえて最終化される項目については、研究機関会議において提案された値を暫定的に示した。